がん対策センターは…

大阪国際がんセンターを病院や研究所等とともに構成する組織で、大阪府や国と連携し、がん対策の立案および進捗管理とその評価を行っています。

大阪府との連携
がん対策

- 大阪府がん対策推進計画を大阪府健康医療部保健医療室健康づくり課とともに立案・評価しています。
- 科学的根拠に基づく具体的な対策は、高い評価を受けています。

がん患者数を把握する仕組み
がん登録

- がん対策には欠かせないがん患者数を把握する制度で、大阪府では年間約6万人が新たにがんと診断されています。
- 大阪府がん登録は、わが国で最も歴史あるがん登録のひとつで最大規模のものです

タバコ対策をはじめとする
がん予防

- 日本人の死亡やがん罹患・がん死亡にもっとも関与しているタバコを社会からなくしていくことがもっとも効果的です。
- タバコは日本人の死亡やがん罹患・がん死亡にもっとも関与している要因です。

がんの早期発見
がん検診

- 大阪府民が質の高い有効ながん検診を受けられるよう、検診精度の評価を行っています。
- がん検診の効果や質の評価に関する研究を行っています。

統計・疫学専門家による
疫学研究

- 大阪国際がんセンター内外の臨床・疫学共同研究を行っており、多くの国際誌に論文が発表されています。
- がん対策の立案・評価に高度な解析手法を適用することで、国内外をリードしています。

発 行

Cancer Control Center
Osaka International Cancer Institute

大阪国際がんセンター　がん対策センター

〒541-8567　大阪市中央区大手前3丁目1番69号

TEL: 06-6945-1181（代表）

編集・デザイン・撮影　株式会社ベーシック

知ることで希望が見えてくる

がん情報道しるべBOOK

「生存率」という

がん治療の"数値化された情報"を

もっと知ることで、希望が見えてきます。

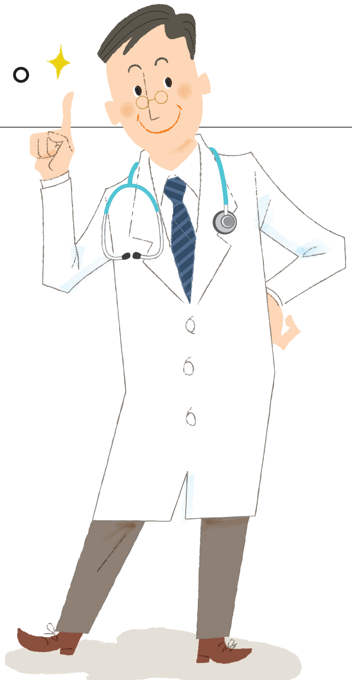
そんな「生存率」を、わかりやすく解説します。

大阪国際がんセンター
がん対策センター

生存率には「5年生存率」だけでなく、「サバイバー生存率」があります。

ここでは

がん患者にとって希望の光をもたらす数字「サバイバー生存率」について説明していきましょう。



今までのがん患者の生存に関する目安は5年生存率が主でした。しかし、その途中の段階の状況、また5年より後の状況については、今までわかりませんでした。

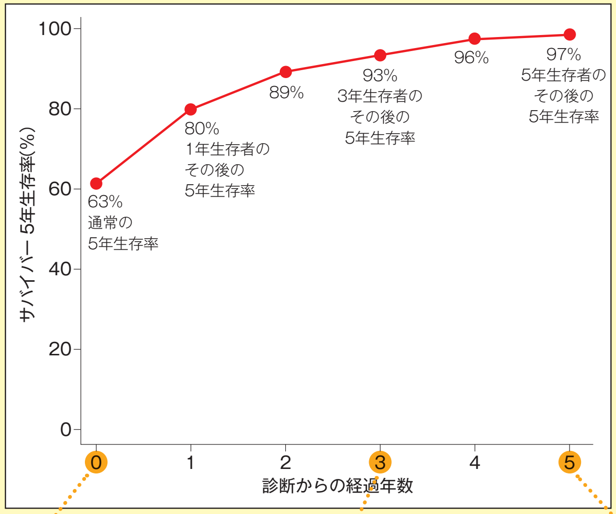
この冊子では最新の方法で計算された10年生存率のデータを用いて、サバイバーの方への新しい生存率情報を紹介します。

このサバイバー生存率は、がんサバイバーの方にとって、ご自身の診断からの経過年数に応じたその後の5年生存率を示すものです。

■がんサバイバーとは?
全米がんサバイバーシップ連合の定義では、がんを克服した人だけを意味するのでなく、がんと診断された直後から治療中の人、またその家族や介護者を含めています。つまり、がん体験者・経験者という表現が理解しやすいかもしれません。

■このリーフレットで示している生存率は、全て相対生存率という指標を使っています。この指標の場合、病院で用いられる実測生存率とは値が異なる場合があることにご留意ください。このリーフレットのデータの詳細は、Ito Y et al. Cancer Science誌 2014年 105巻11号:1480-1486ページに掲載されています。

サバイバー生存率のグラフはこう見るとわかりやすい!



横軸は診断からの経過年数を示しています。縦軸はサバイバー5年生存率となっており、0年は診断時の5年生存率(今まで報告されてきたもの)、1年経過後～5年経過後のサバイバーの方におけるその後の5年生存率(1年～5年サバイバーの方の6～10年生存率に相当)を示しています。

診断時

診断されたときに医師から示される5年生存率です。診断後5年以上生存している方の割合です。診断から1～2年以内に死亡される病状の悪い方のデータも含まれています。

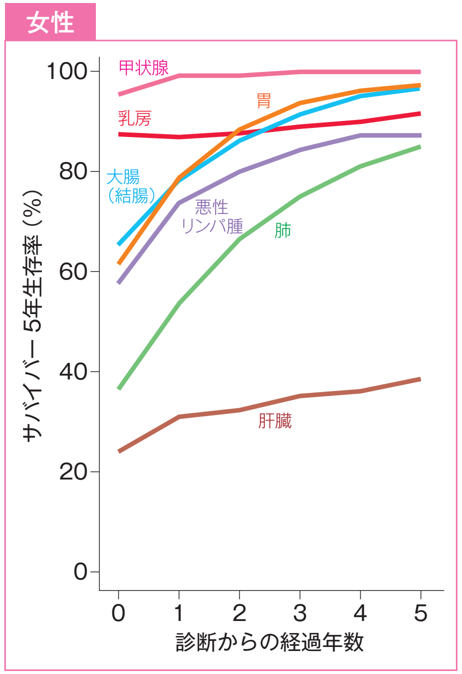
3年経過された方のその後の5年生存率

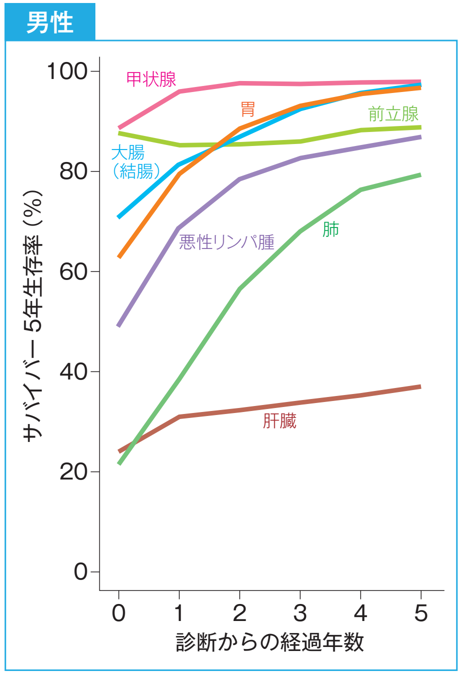
診断時の5年生存率よりも高い値になっていることがわかります。ご自身の体調の回復とともに、希望の持てる生存率を確認できます。

診断から5年経過

これまで、5年が治癒の目安とされてきたように、多くのがんにおいて、5年生存者のその後の5年生存率(サバイバー5年生存率)は100%に近づいています。つまり、余命はがんでない人とほぼ同じであることを意味します。

がんは生じる部位によって生存率が異なります。
診断からの経過年数に応じた部位別サバイバー生存率を見ていきましょう。





これまで報告されてきた5年生存率は、診断された全ての患者さんを対象として算出されていますが、診断から何年か経過した「がんサバイバー」の方にとっては、経過年数に応じたその後の予後についての情報が重要です。そこで診断から1～5年以上生存された方それぞれに、その後の5年生存率を算出したのが「サバイバー生存率」です。

例えば胃がんの5年生存率は約60%ですが、診断後5年生存者におけるその後の5年生存率は97%となり、ほぼがんは治癒したと考えられます。多くのがんは胃がんと同じように診断から年数が経過すると高くなっていきます。これは、がんと診断されたとしても、年を重ねることで年々治癒に近づいていくことを示しています。一方、肝がんでは、5年生存者におけるその後の5年生存率は40%未満と低いままで、5年を経過した時点では治癒したとはいえません。

生存率について医師に聞く

患者さんに、サバイバー生存率をお話しすると病院に来る目標ができた！と言われました。うれしかったですね。

婦人科腫瘍医　Y.U 医師（45歳）

これまでは私たち医師は5年生存率のデータしか持っていませんでしたので、治療後に通院される患者さんの不安の声に対し、「最初の時よりは再発の可能性は下がってきてますよ」といった、データ的根拠のない、あいまいな言い方しかできなかったのです。正直、医師として歯がゆい思いがありましたね。ところが“サバイバー生存率”を知って、ある時術後の患者さんに「○年頑張ったから生存率は○%まで上がりましたよ。来年には○%まで上がりますよ」と具体的に説明しました。すると「生存率が○%上がると聞くと、病院にくる目標ができた気がします」という言葉をいただいたんです。うれしかったですね。やはり目に見える数値は、患者さんにチカラを与えてくれることがよくわかりました。

さらなる生存率データの進化に期待しています。

医療者にとってもがんの種類や進行度ごとにサバイバー生存率が違うことが正確に理解できるようになります。その結果、日常診療でも、より危険な時期に、より注意深く診察していけるようになると思うんです。それは間違いなく患者さんのためになることですよね。

次のステップとして、もっと細分化した患者さん一人一人の状態に基づいたサバイバー生存率や、再発治療後の生存率などにも発展させられたりできれば、医師としては申し分ないデータになります。それを期待しながら、医療に邁進していきます。

「知る」ということは「生きるチカラ」になります。
「希望」にもつながります。
今は、こころからそう思いますね。

N.Tさん（52歳） 乳がんを経験

12年前、乳頭にしこりを感じて病院にいきました。診断の結果、ステージⅠの乳がんでした。先生のお話しでは「初期のがんなので心配はありませんよ」とのことでしたので、がん宣告されてもそれほどショックは受けませんでした。術後も5日で退院できたのですが、その1カ月後、センチネル・リンパ節に転移があるということで2回目の手術を受けました。正直、こちらの方がショックでした。

その後は、再発を防ぐ目的で抗がん剤治療を続けることになりましたが、治療が終わった時は、もう苦しまなくていいんだと、本当にホッとしたのを覚えています。

がんを宣告された時から、なぜか「私は治る！」との思いがありました。軽度だったこと、家族の支えがあったこと、そんなこと全てが私のチカラになったと思います。サバイバーの方はみなさんそうでしょうが、私もがんになったことで、一日一日、瞬間瞬間を大切に生きようと思いましたし、10年を経過した今でもそう思っています。

今回、サバイバー生存率を知って、フォローアップの重要性も再認識できました。生存率の数値を知ることで、さらに安心感を抱くこともできました。

「知る」ということは「生きるチカラ」になります。「希望」にもつながります。今は、こころからそう思いますね。

2008年、医学の専門を深める為にイギリス留学を始めて3カ月目、ふと右の鎖骨の下あたりが気になって触ってみると、ゴルフボール大のしこりがありました。学校の友人たちに強く勧められたこともあって、すぐに病院に行きました。診断結果は、想像もしない「悪性リンパ腫」。診断のショックもありましたが、同時に留学を中止しなければいけないのではと考え、悔しい気持ちでいっぱいでした。日本にいる家族も、すぐに帰って日本で治療することを希望しましたし…。 しかし、念願のイギリス留学を3カ月で中止にすることはできません。

幸運にもイギリスではNHS（国民保健サービス）のもと、日常生活への支援が充実していて、勉強を続けながら治療を行うことができたのです。抗がん剤治療に3カ月、放射線治療に2カ月、苦しみに耐えながら予定の留学を終えることができました。思えば、学びたいと強く思ったことや周囲の友人や恩師にあたたかく接してもらったことが、苦しさや精神的なショックを乗り越えるチカラになったのだと思います。日本に帰ってからも治療を続け、5年が経過した時、ようやく治ったんだと安心しました。

この度、サバイバー生存率を知って、5年を待たずに、自分が治癒に向かっていることが分かるデータがあることを知りました。がん患者にとって、とても励みになると思います。暗やみの向こうに一筋の光を見つけたような、そんな気持ちになるんじゃないでしょうか。

サバイバー生存率を知ることは、
暗やみの向こうに一筋の光を見つけたような、
そんな気持ちになるんじゃないでしょうか。

M.Hさん（40歳） 悪性リンパ腫を経験